私と依存症

C 氏（アルコール依存症　60 代　女性）

私はアルコール依存症の父のもとで育ちました。父だけではなく、祖父もアルコール依存症でみんな同じ病院で依存症が原因で亡くなりました。父からの暴言暴力を受け、私はあんな風になりたくないと思っていました。親元を離れ一人暮らしをして、仕事仲間とよく飲みに行くようになりましたが、私は親のような飲み方はせず、ただお酒が人よりも強いなと思う程度でした。その後結婚をして子育てをしていましたが、離婚をして実家に戻ってから少しずつ飲み方が変わってきました。そのころには自分がすでに病的な飲み方をしているとは思ってもいませんでした。自分では楽しく飲んでいるつもりでしたが、母からある日「父さんと同じような飲み方じゃないか」と言われることがあり、いつの間にか依存症になって、食事は食べられない、やる気も起きないという状態にまでなっていました。町医者に相談しましたが、ここでは治せませんと病院を転々としましたが、厚生病院に行った際に紹介されたのが精神科の病院でした。そこで初めてアルコール依存症ですと診断を受けて、なぜ私がと心底びっくりしました。

娘と二人暮らしをすることになっても、私はだれにも迷惑をかけずに飲むことが出来ていると思い込んでいました。子どもにはお金と食べ物を与えているので大丈夫だと思っていました。お金を持っているはずの娘は、スーパーで万引きをして私は警察に呼ばれましたが、私はお酒が入った状態で娘を迎えに行きました。その時、娘がどんな気持ちだったのだろうかとか、娘が SOS を出していたんだということを断酒会に入ってから、振り返ることが出来ました。それ以降、娘との関係が悪くなってきました。孫の顔は見せられないようにすると娘に言われ、娘は子どもが産めない手術を受けてしまいました。どれだけ娘に辛い思いをさせてきたとかと悔やんでも悔やみきれません。

断酒会に入ってからもなかなかお酒は止められず、例会回りにみんなが手伝ってくれました。何回も入院をしましたが、断酒会の人たちはそんな私を見捨てず例会に誘ってくれました。そんな周囲の手助けもあり私もみんなの気持ちにこたえるように少しずつ変わってきました。ある時また飲酒により入院をしてしまいましたが、入院中に断酒会の会長に推薦されて、病院の先生の激励もあり会長をさせていただきました。その時期には、太田病院からも車を出して篠路断酒会に来てくれて感激したのを覚えています。

断酒会に入ってからは、女性の例会「リラの会」というのがあるのを知って、他の多くの女性と知り合うことが出来て、男性の中では話せないようなことも話すことが出来ました。それからは他の例会や研修会にも積極的に出るようになり断酒の助けになったと思います。今後、女性の依存症の方の回復のお手伝いが出来るようにもっと活動していきたいと思います。また、自分自身も断酒を続けて健康で働いている姿を娘に見せていきたいと思います。